学校番号	T0110

平成 31 年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	3･4 年次
使用教科書	「新編　書道Ⅰ」　（教育出版）						
副教材等	自主教材プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書写と書道の違いを理解し、芸術としての書道を体験する。
・日常書や身の周りの書に関心を持ち、文字文化の成り立ちや歴史的な背景を学習する。
・書体の変遷や伝統・文化に関する学習活動により、芸術としての書の美しさ・魅力を感じることができるようにする。
授業の進め方については、授業ごとの目標を明確にする。また、評価については毎時間ごとの作品提出・レポート等で行う。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に鑑賞や表現が出来る態度を育む。	感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、積極的に表現できる態度を育む。	使用する筆記具の特性を理解し、創造的に表現できる力を身につける。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解する。また、創造的に鑑賞する態度を育む。（鑑賞の能力）
評価方法	作品・レポート	作品・レポート	作品	レポート（鑑賞の記録）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	学習項目	単元(学習内容)	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	ガイダンス	「用具・用材　文房四宝」 ・用具・用材について理解する。 ・書道と書写の違いについて ・書体の変遷について学習する。	○			○	a:書道に関心を持つ。 d:文字や書の伝統と文化について理解する。	レポート
5	硬筆の学習	・普段から丁寧に文字を書くことを心がけるようにする。 ・ペンを用い、自分の氏名等日常書を学習する。	○		○		a:硬筆の学習に積極的に取り組み、丁寧な文字を書くこができているか c:丁寧に美しく書くことができているか	作品
6	漢字の学習	「楷書の学習」 ・書写からの展開。 ・書写から楷書の古典の学習。 「九成宮禮泉銘」 「雁唐聖教序」 「孔子廟堂碑」	○		○	○	a:書道と書写の違いについて考え、積極的に表現しようとしているか c:唐代の楷書の古典の表現技法を身につけているか d:古典を鑑賞し、文字の伝統や文化に関心を持っているか	作品 レポート
7・9	漢字の学習	「篆刻・刻字の学習」 ・紙と違ったものに表現することの楽しさを味わい、生活の中ある書に関心を持つ。	○	○	○	○	a:主体的に表現できているか b:刻字の特性を活かした表現をすることができる。 c:素材の特性を活かした表現が出来ているか d:互いの作品を鑑賞し、それぞれの表現意図を創造的に鑑賞できているか	作品 レポート
10・11	漢字仮名交じり書	「意図に応じた表現」 「自分の表現を目ざして」 ・漢字仮名交じり書の幅広い表現方法に触れ、自身の作品に活かすことができるよう表現の工夫をする。	○	○	○		a：積極的に取り組めているか b:自らの意図に基づいて構想できる。 c:自らの意図に基づいてた表現ができる	作品 レポート

1 2	仮名の学習	「仮名の成立と発達」 「基本的な筆使い」 ・仮名の成立と発達について理解し、基本的な筆使いができるようにする。 ・「いろは歌」の練習	○		○		a：仮名が日本の文字文化に大きく関わっていることを理解する c：仮名の筆使いを習得しようとしている。	作品
1	仮名の学習	「蓬莱切の鑑賞と臨書」 ・基本的な筆使いを用いて仮名古典の臨書をする。 ・料紙を使用した実寸大での臨書をする。	○		○		a:古典を忠実に臨書しようとしているか。 c：仮名の基本的な筆使いを習得し、古典の臨書ができているか。紙面構成ができているか	作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:　書表現の構想と工夫
c:　創造的な書表現の技能　　d:　鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。